

御子左家の血筋(一)

高田 友

(一)

藤原定家の相舅(あひやけ)(息子娘の舅しゅうとを此は呼ぶ)宇都宮頼綱、鎌倉幕府の要職にありしが、元久二年(一二〇五)、實朝殺害を企てたる「牧氏の變」に連坐し、追討は免れたるも、下野にて落飾、やがて上洛して、嵯峨野・小倉山の麓に山莊を營み、ここに隱棲す(後に政界復歸)。文曆二年(一二三五)に及びて、山莊の襖に和歌百首を貼らむと欲し、その撰を定家に依頼、かくて小倉百人一首世に出づ。

定家はこの百首に、自らの歌、および父俊成の歌を含めたり。

來ぬ人を松帆の浦の夕風に焼くや藻鹽の身も焦れつつ (定家)

世の中よ道こそなけれ思ひ入る山の奥にも鹿ぞ鳴くなる (俊成)

扱、俊成・定家の父子は、道長の男系直系の後裔たり。

道長の息に、第二夫人明子所生の長家あり。その後、忠家・俊忠・俊成・定家と続く。定家の息・爲家の子の代に至りて、冷泉・二條・京極の三家に別れたれど、長家より爲家までを「御子左」家といふ。

(註)

俊成・定家のみ有職いんそくよみ讀せられて、「しゅんぜい」「ていか」と爲されよかし／故實讀、名目讀とも／隆盛・從道／定子彰子式子・太政官・笏〔尺〕説と『柞〔サク〕』説あり／音にも訓にも有職讀あり

この家名の由來は、長家、醍醐天皇皇子兼明親王(かねあきら)(御子左大臣)の屋敷を拜領したるに據りて「御子左民部卿」の異名を取りたるに由る。

諸兄諸姉、豈あに感ずる所あらせ給はずや。長家より爲家に至るまで、六人悉く和歌に出色しゅっしょくたり。初代長家にして既に、後拾遺以後の敕撰集に四十四首の入集を見る。

(二)

千載和歌集九六四に周防内侍の歌あり、詞書ことばがきより御紹介仕る。詞書の中の「二條院」は忠家の伯父關白教通のりみちの館の儀と察せらる。(小倉百人一首に在り)

二月ばかり、月明き夜、二條院にて人々あまた居明して物がたりなどし侍けるに、内侍周防寄り臥して枕もがなど忍びやかにいふを聞きて、大納言忠家これを枕にとて腕かひなでを御簾みすの下よりさし入れて侍ければよみ侍ける。

春の夜の夢ばかりなる手枕に甲斐なくまたむ名こそ惜しけれ

「これを枕にて」との戲言ざれごとの主忠家こそ、定家曾祖父の儀に外ならね。而して、忠家、周防内侍の此が歌に返歌して曰く、

契りありて春の夜深き手枕をいかで甲斐なき夢と爲すべき

戯れの歌に對して戯れにて返したる巧みなる應答、宜むべなるかな、御子左の血筋に恥ぢず。

(三)

叔さく、それがし、この應答歌を、現代の歌謠曲風に仕立てて、解題せむとす。高覽に供するに足る作にはあらねども、すでに我が厚顔無恥なるは各位に於せられて重々御承知の儀なれば、敢へて僭恣せんしの罪を犯さむとす。

なほ、定家祖父俊忠(忠家息)にも同斷の戯れの歌あり。これまた右と同じく、定家の百人一首「隠れ撰歌」たり。時經ときへで、御紹介仕るべし。

定家は、曾祖父、祖父の歌を小倉百人一首には收めずといへども、集中二首の歌の關聯歌として採用せり。父子相傳四代に亘りて歌集を私物化せりと難ずる向きもあれど、敕撰集にあらねば笑ひて見過すべきか。

恥多き我が詩を呈示仕る前に、この歌、臺灣の歌謠曲「有我就有你(ヨウウオージョウヨウユニー)」の曲にて歌ふを得べく作りたれば、此が歌をも紹介し、かつ我が訓讀をも附せむ。行末の羅馬字は各行最後の文字の拼音ピンインなり。韻は斯踏かくむべしと御覽あるべし。

在愛的世界裡(二),

愛の世界の裡うちには

有我就有你(三),

我有りて就ち汝あり。

只要有你在一起(ㄐㄧˊ),

汝俱にありせば

喝水也像喝甜蜜(ㄏㄨㄟˊ)。

水喝むもまた甜き蜜を喝むに像たり。

我需要你, 我需要你(ㄋㄧˊ),

汝なくは生くるに難し。

我愛你, 我愛你(ㄤㄟˊ),

汝こそ我が命なれ。

人兒心兒永不離(ㄥㄨㄟˊ),

人も心も永に離れじ。

就像沙兒黏成泥(ㄐㄩㄟˊ),

すなはち沙の黏りて泥と成るに像たり。

可見我有多麼愛你(ㄋㄧˊ)。

我のいかに汝を思ふやを見べし。

「我需要你」と「我愛你」はおそろしくは、英語の I need you. I love you. に準へたるならむ。

右の譯文は訓讀したるのみの散文譯なれば、曲に合せて歌ふべく、試みに詩に作りて示し奉らむ。

我あり君ありて

世は樂し

君あればこそ

水も蜜のごと

戀しや戀しき

君をば思ひて

とこしへ離れず

濼標たどりつつ

君をなむ慕ひて行かむ

而して、この唐土歌謠曲の曲に合せて翻案したる二首の應答歌。いでやこれを左に叙べむ。

〈周防内侍〉

春の夜の夢ばかりなる手枕に甲斐なく立たむこそ惜しけれ

差し伸べ給ひける

手枕は

春歸り行く

雁の契りにて

なにかはたのまむ

君が言の葉

まことと思ひて

身をつくしたらむには

あだなる憂き名立たむ

You offer me your lower arm,

Telling me to use it as a pillow.

It sounds like he declaration of love.

In fact, it's nothing more than insincere temptation.

If, trusting in you, I devote myself to passion,

I would become the talk of the court, which would do me dishonor.

〈大納言忠家〉

契りありて春の夜深き手枕をいかで甲斐なき夢と爲すべき

われときみとは

さきの世に

命惜しまぬ

契りありてぞ

延べたる手枕

見よや涙を

袖ぞ沾ひづる

身を盡す我が誠

行くすゑ永遠とに持ため

In our previous life,

You and I promised never to

Forget each other for the life of us.

That's how I am offering you my arm this way.

Look at my tears,

Which make my sleeves wet through.

Now you know what deep love I am in.

Depend on me in all days to come.

インターネット検索は、『有我就有你(尤雅).mp4』と打ち込み、其の音に合わせて歌ひ給
へかし。

(令和四年十月二十五日受附)